ほしぞらさんぽに出かけましょう

11月の日の入り(日没にちぼつ) は何時ごろか知っていますか。 11月2日の日の入りの時刻は午後 4時45分(東京で)、11日では 午後4時37分となっています。一

年で一番日没時刻が早いのは12月始めごろで、午後4時27分ぐらいのようです。

太陽が沈んでもしばらくは空は明るくて星が見 えませんね。そのような空の状態を天文薄明でんもん はくめいと言います。空が完全に暗くなり星が見えて

くる(天文薄明が終わる)のは日没後 1 時間ぐらいしてからですから、11月・12 月だと、およそ午後 5 時半ごろには、ほしぞらさんぽが始められるわけです。11 月・12月は子ども達がほしぞらさんぽを楽しむのにぴったりの季節ですね。

夏と秋と冬の星座

東の空を向いて見上げると、頭上にはペガスス座の大きな四辺形が、本当に大きく見つかります。その四辺形から東に向いてつながっているアンドロメダ座を探しましょう。アンドロメダ座の左側・北東の空にはカシオペヤ座のW字がたてになって、WというよりはMの字に見えます。カシオペヤ座のMの字は北極星よりも高いので、今はとても

見つけやすくなっています。こんなふうに11月の 夜空には見つけやすい星座がいくつもはっきりと 見えています。

体を北西に向けると、かなり高いところにはくちょう座の全景がくっきりと見えていて、はくちょう座ってこんなに大きかったんだなあと感心してしまいます。はくちょう座・こと座・わし座で作られる夏の大三角もまだ全部見えています。もちろんこと座のベガも明るく輝いていますね。



こんなふうに夏の星座も秋の星座 も見えている11月の夜空ですが、午 後8時ごろになると北東の低いとこ ろに明るい星が見えてきます。ぎょ しゃ座のカペラですね。さらに1時 間もたつとおうし座のスバル、そし

てペルセウス座の弓状に並んだ星の列まで見えてきますよ。こうなると冬の星座のお出ましというわけです。さらに一時間もがまんすると、オリオン座も見えてくるのではないかしら。

アンドロメダ銀河

アンドロメダ座の見所は何と言ってもアンドロメダ座の銀河・M31ですね。地球からの距離はおよそ250万光年、双眼鏡で見ることができるもっとも遠い宇宙の彼方の光です。残念ながら伊勢原の夜空は明るいので、双眼鏡を使ってもはっきりとは見えなくて、ぼんやりと白っぽいもやもやにしか見えないでしょう。でもその白い形は250万年も前にあちらを出た光で、今まさに250万年前を見ているの

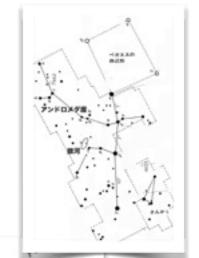
だ、なんて考えるのは楽しいですね。



まず南の空で明るくかがやく木星を見つけましょう。木星の右横には暗いけれど土星も見えています。二つの惑星は8月にはもっとずっと東(左側)に見えていましたよね。ずいぶ

ん西に動きましたね。星座も西に動いていきました。この調子で動いていくと木星・土星はいつごろ見えなくなるでしょうね。

もちろん肉眼では他の星と区別できませんし、 双眼鏡でも「惑星」であることまではわかりませ ん。木星表面のしま模様や土星の環ゎがかろうじ て見えるには、小さくても望遠鏡が必要です。



つけたし。みなみのうお座のフォーマルファウトが、南東のあまり高くないところにポツンと見えているでしょう。

11月は流れ星シーズン 流星群が3つ

おうし座としし座の流星群があり、11月中は毎 晩のように流星が見られることでしょう。

おうし座南流星群とおうし座北流星群

おうし座南群が5日、おうし座北群が12日に流れるピークということになっていますが、実際は数は多くないでしょう。でも明るい流れ星が多い流星群です。このふたつの流星群は11月中ダラダ

ラと流れ続けますから、11月のほしぞらさんぽで は流れ星に出会うチャンスが増えるでしょう。

11/17 しし座流星群 あいにく満月に近く条件 は悪いけれど、明るい流れ星が多く見られている 流星群ですので、ぜひ観察しましょう。

11/19 部分月食 ほぼ皆既月食に近い

午後4時半ごろ、すでに月食が始まって少し欠けた状態で月が東の地平から昇ってきます。午後6時3分頃には月全体の98%まで欠けるので、今回はほとんど皆既月食と言ってもいいぐらいの月食です。

